

東日本大震災被災地の障害者施設へ 「オーダーメイドメガネ支援」

2011/11/05
株式会社メガネの和光

この度の震災に、当社といたしましても被災地の皆様のお役にたてるよう、当社なりの支援を考え、既製のメガネではなく一人ひとりの視力やかけ心地を合わせたオーダーメイドのメガネをお届けしたいとの思いから、日本赤十字社の仲介により、陸前高田市にて被災された障害をお持ちの方々45名一人ひとりに、和光の技術でお作りしたメガネを無償でお届けしてまいりました。



陸前高田市は、市街地が全て津波で流され、松原苑は津波こそ避けられたものの、天井が崩落するなど、一時期全員が市外へ避難するまでの被害を受けていました。今は、復旧しほぼ元どおりの運営ができていますが、周辺には、殆ど商店もなく、2軒あったメガネ店も無くなってしまっている状況です。

10月4日に現地入りし、介護老人保健施設 松原苑の会議室を会場にお借りして、商品陳列と視力測定機を持ち込み設営をいたしました。事前に希望者を募り、メガネを提供する対象の方を決め、時間割を定めていましたので、10月5日10時より視力測定とメガネ選び、及び制作のための調整を行い、7日までの3日間で、45名の方のメガネを承りました。メガネは一旦名古屋に持ち帰り、加工をして再び10月27(木)、28(金)の2日間に同じ会場で一人ひとりに最終確認と調整を行いメガネをお渡しいたしました。

メガネを提供した方々は、松原苑入所者が13名、デイケアで訪れる方が19名、障害者就労支援施設 青松館10名、あすなろホーム3名で、車椅子の方が半数を占めるなど、視力測定の難しい方が多くおられました。車イスからの姿勢で測定機器をあてがうことが難しかったり、高齢で、測定のための光が眼に通らなかったり、質問のやりとりや、意思確認がはっきりしない方が多く、和光の技術力が発揮されたと感じました。

支援メンバー6名：清水元敦、秋田洋一、小野浩、安藤裕一、辻洋一、伊藤國生



メガネのお渡し日。メガネを受け取られた方は、そのまま掛けて帰る方も多く、良く見えてうれしいと喜んでいただけました。現状の生活では、自分に合ったメガネを作る場所も機会もない中で、我々の支援は微力ながらも、地域の方々の生活の向上のお役に立てたことを確信して、松原苑を後にしました。

お渡しメンバー2名：辻洋一、田中寛之